

SETOGIWA TIMES

発行所：行政書士塩見事務所 E-mail: info@setogiwa.com Web: www.setogiwa.com
大阪市中央区谷町 2-5-4 702号 Tel: 06-6946-9505

① 男女はなぜ対比されるのか

「女性にはこういう人が多いよね」、「男の人っていつもこうなんだから」
こんなセリフ、聞いたことがありますか？覚えはありませんか？

女性にも男性にも「個性」があるはずなのに、知らず知らずのうちに、ある種のタイプを性別で判断しているというような覚えは？

ある男性の発言

「言いたいことを言う女性に『それだけ言うなら貴方がやってよ』と頼んだら、『それはできない』、『そこまでやる気はない』と急にナヨナヨする。追い詰められたら女の武器を使うのは卑怯だ。それなら始めから言うなよ！」(ポンポン)

言いたいことだけ言って、自分がやるとなると「できない」と言う、それを「けしからん」と思う気持ちは分かります。

しかしながら、追い詰められてナヨナヨする人は、男性の中にもいますし、国を代表するエライ人の中にもいます。それは個人的な特徴であって、女性一般の特徴ではないということに、この発言者は気づいておられないのです。

「女性が強くなった（古い話です）、男が弱くなった」と言われていますが、



これもいい加減な話で、何をもって強いと言うのか、弱いと言うのか、その基準がよく分かりません。

これまで男性の専売特許とされていたところに女性が位置を占めるようになった、女性特有の性質とされていた部分が男性にも表れるようになった、こんなことが強弱の判断の基準になっていないのでしょうか？

① 男と女のあいだには深くて暗い河がある

「どの男性にも心の中に女性を見下す意識が必ずある」という前提のもとに、男性の言葉尻をとらえて、「差別だ」と指摘する人たちがいます。そんな指摘を恐れて言葉遣いに気を遣うあまり、本来意図したことがうまく伝わらないとか、男女の違いを超えた自由な話し合いができないということなら本末転倒です。

一つ一つの言葉に「あ、いまの差別！」とあげ足を取ろうとする人は、部下のミスを怒ることしか知らない上司のようです。口をつぐむしかありません。

今まで持ち続けてきた意識や習慣は、本人が自分で「おかしい」と気づいて、「変えよう」と思わない限り明日から急には変わりません。

人から「これが正しい」と言われても、強制されたのではなにごとにも長続きしないし、定着しません。子どもは自分がなぜ叱られたのか、納得しないと言うことを聞きませんし、叱られたことをやめようとはしません。同じことです。



自分の欠点も長所も丸ごと受け入れてくれる、そんな人がいてくれたらいいのに！理想ですね。

でもそれがなかなかみつからない。なぜそんな人に当たらないのか？きっと自分のがわに、「私は貴方を丸ごと受け入れます」という信号が不足しているからでしょう。人はお互い感じあい引きあうものですから受信ばかりでなく「自分もそうだ」と発信しないことには相手に伝わりません。

言うのは簡単ですが、これはなかなか難しい事かも知れません。お正月の宿題にしますか。

ほかにもできます：相続・遺言/交通事故/告訴・被害届/パスポート手続

E-mail: info@setogiwa.com Web: www.setogiwa.com

今年の最終号です

読者の皆さんから多くのヒントやアドバイス、季節感あふれる写真、空想の世界に誘われるスケッチ、などをお寄せいただきました。

皆さんとの会話やメールに刺激を受けて記事を書いたこともありました。

ありがとうございました。助かりました。おかげさまで滞りなく1年間発行を続けることができました。来年もよろしく願いいたします。